

令和8年度 宗方防災まちづくり講話

気象や被災地を知り、地区防災力強化！

【発行者】
防災まちづくり活動を展開する
特定非営利活動法人
EPP

令和8年度宗方防災まちづくり講話を、6月21日（日）に植田公民館で開催しました。15名の防災士の皆さんが参加し、防災気象情報と地域防災の最新知見について学びました。

防災気象講話

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

【新たな防災気象情報】

令和8年5月29日より運用開始となった「新たな防災気象情報」について、改正点や留意点について解説頂きました。

警戒レベルの数値や色分け、災害の種類（氾濫・大雨・土砂災害等）が統一され、分かりやすくなりました。一方で、自分の住む場所がどの災害に対し、どのタイミングで避難すべきかを、事前に決めておく必要があります。

気象庁の「キキクル」や「あなたの街の防災情報」を活用して、日頃から気象に関心を持つことが大切です。

【宗方校区の防災上の留意点】

宗方校区は、大分川や七瀬川に囲まれ、洪水や浸水のリスクが高い地域です。

また、団地周辺には崖地が多く、土砂災害警戒区域も点在しています。

河川は万全ではなく、たとえ河川が氾濫しなくても、内水氾濫にも注意が必要です。

また、河川は数十年に1回の大雨を想定した設計ですが、それを超える大雨もあるため、早めの避難が重要です。

講師紹介



EPP 平川尚人氏（気象予報士）

大分県土木建築部の国東土木事務所長等を歴任され、現在NPO法人EPPで、防災知識を活かした活動等を行っている。

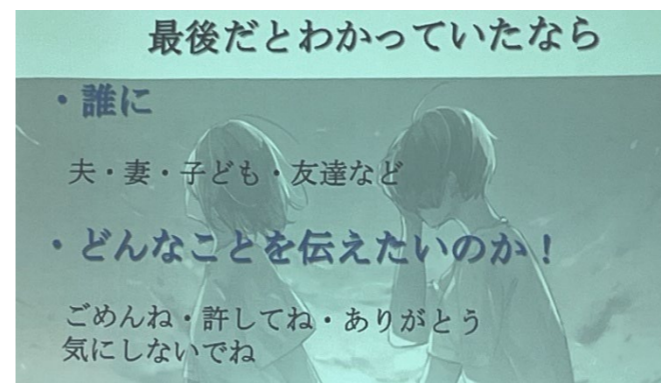
講話の様子



プログラム

1. 令和8年度 宗方校区防災士協議会総会
2. 防災講話①：気象情報と危険個所等の把握
～ 新しい防災気象情報や危険個所を知り、地区防災に役立てる！ ～
講師：特定非営利活動法人EPP 平川 尚人 氏（気象予報士）
3. 防災講話②：地域防災の現状と課題
～ 能登半島大地震と佐賀関の大火災を通して ～
講師：大分大学減災・復興デザイン教育研究センター（CERD）板井 幸則 氏

地域防災講話



【佐賀関大火、能登半島地震の被災地の状況】

令和7年11月8日に発生した佐賀関大火、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災状況と避難所環境・課題について、大分大学（CERD）の板井幸則氏より講話を頂きました。

佐賀関（田中地区）では、住民同士の絆が深く、火災発生時の声掛け等により、火元の方以外は全員無事でした。避難所環境は比較的良好でしたが、生活再建への不安が大きな課題でした。

能登半島地震では、被災が広域に渡り、道路寸断による孤立もあったことから、公助が行き届かず、避難所環境は厳しい状況でした。

【日頃の備えと、共助の力】

公助には限界があり、日頃の備え・訓練・共助の力が重要であることを認識しました。

基本的な備蓄、避難する際に必要なもの、避難所環境を良くする工夫、住民同士の支え合いの大切さを学びました。

講話を通じて、「命を守るために、地域で協力し合える関係づくり」の必要性を感じました。

講師紹介



大分大学（CERD）板井幸則氏

臼杵市消防本部消防長を歴任した後、現在大分大学防災・減災デザイン教育研究センターで、防災知識の普及活動をされている。

講話の様子



お問合せ・ご連絡はこちらまで 特定非営利活法人 EPP

〒870-1159 大分市宗方台北13-1（大分事務所） 〒861-2105 熊本市東区秋津町秋田3066-18（熊本事務所）
E-MAIL t-yamaguchi@epp.or.jp ☎097-507-2675 E-MAIL s-okabe@epp.or.jp ☎090-8350-8861

